

立川

立川と語ろう 立川に生きよう

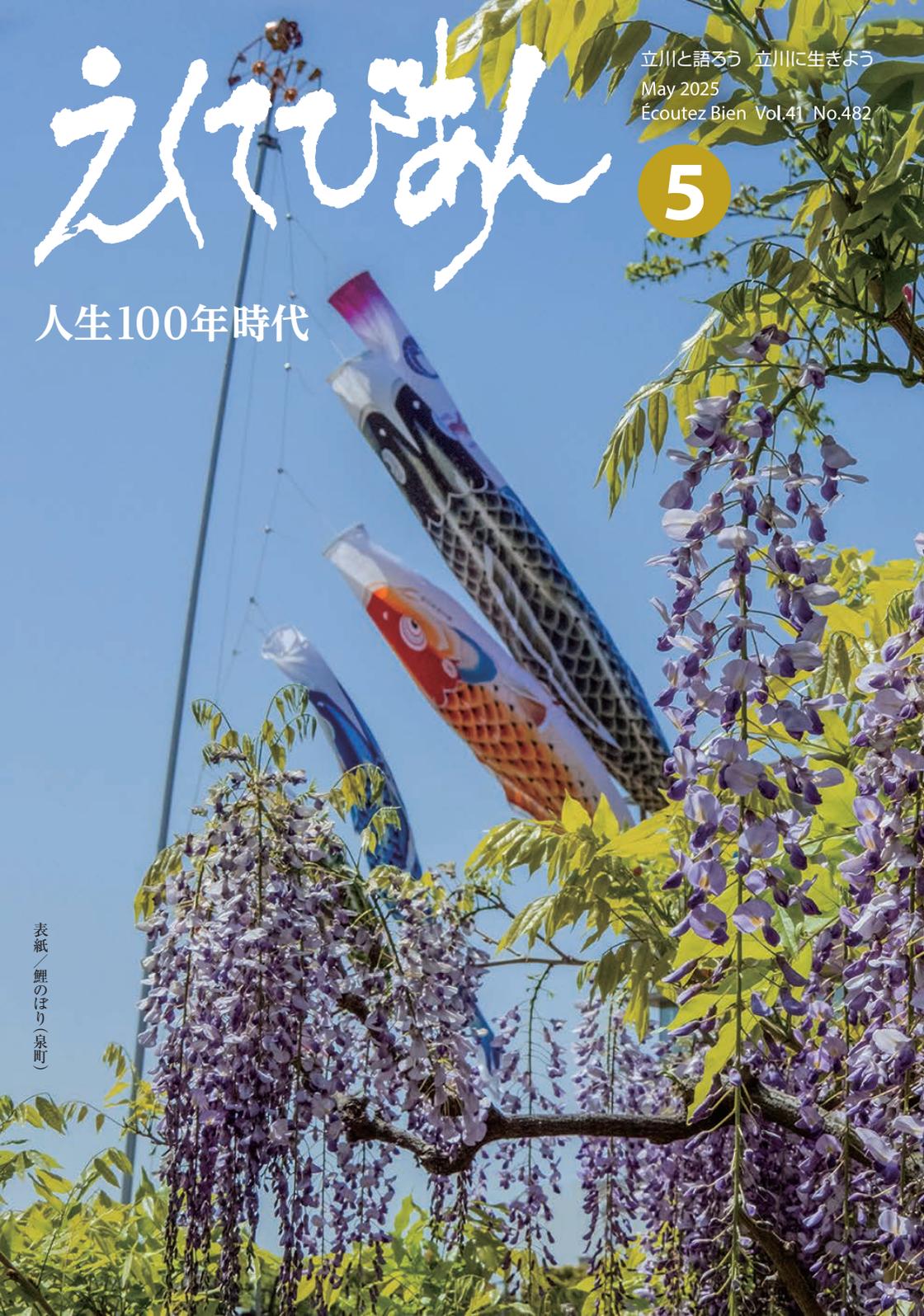
May 2025

Écoutez Bien Vol.41 No.482

5

人生100年時代

表紙／鯉のぼり（泉町）





エミリーフロージェ



まずはホットチョコレートから



前菜のようなクリームダンジュ
季節のフルーツ、生ハム添え

極上のモーニング

お菓子のエミリーフロージェでモーニングを。
それも、パティシエの思いが込められた極上モーニング。
カフェのモーニングでもない、ホテルのモーニングでもない。
パティシエが作るモーニングは、
新しい1日を一緒に作り出してくれます。



メインは立川烏骨鶏のクロックマダム フランス、バスク産ジャンボンブラン (ポイルハム) を使用



モーニングに立派なデザート。メインはこちら?と聞きたくなるようなすてきなお菓子。レモンクリームのみルフィーユ。パイ生地が本当にしっかりサクサク。クリームは甘さと酸味が絶妙で、上からかけたバニラにもレモンを削ってかけてあります。さすがです。飲み物と一緒に。



オープンキッチンでシェフの仕事が見られます。
パティシエとお話できるのも、このモーニングの醍醐味。

エミリーフロージェ 立川市曙町2-5-1
モーニング営業時間 8:30~10:00
モーニング営業日 4/21(月) 4/27(日) 5/4(日) 5/8(木)
5/12(月) 5/23(金) 5/31(土)

要予約 Instagramプロフィール欄記載のリンク
エミリーフロージェ公式LINEのメニュー欄よりご予約いただけます。



ネットでも公開しています

[立川に育まれて 62]

誰にでも、語りたい人生があります



井上千鶴子さん

1939年生まれ。所沢出身。親戚の紹介で稲田堤の家に嫁いで40年、病氣もし、夫の愚痴を聞かされ続け、何もしない夫からなんでも責任を押し付けられて心労を重ねた。川崎の菅町会と言え日本一大きな町会組織、そこに夫が参加してくれないので、どんなことも代わりにやるなどして、「両親が生きているうちは」と我慢してきたが、限界が来て、家を飛び出して知人の紹介で砂川へ。「立川はいい所で、人も親切だからいい」という言葉で決めた。その後、離婚。砂川に来てから知り合った人の紹介で、毎日富士山が見える五日市街道沿いに住まいを移しそこに10年。立川の「まちの案内人」の仲間と一緒に高齢者施設の見学に行き、高齢者施設の現状に驚いていたところ、そんぼの家のオーナーから声をかけてもらい、持ち前の決断力、見学と同時に即申し込み。そのおかげで待たずに入居できた。小学2年からの所沢の友達と今でも仲良く付き合っている。毎日が忙しく、とても楽しい。

吉田：横須賀に住んでいたんですけど、周りに外国人が多くて、ゴミ出しの時に「not today」とか「Wednesday」とか「Monday」とか言って、その片言が癖になっちゃって。

井上：吉田さんは気仙沼の出身で、フェンシングをしていたと聞いてね。終戦直後にね、フェンシングを教える先生がいたって、すごいなと

終活っていうけれど、これからも新たな人生です

高校生の時にフェンシングをやっていた女性がいる、と連絡いただきました。

フェンシングの江村美咲選手が立飛ホールディングス所属と聞いて、

懐かしく、かつてを思い出したのだそうです。

さっそくうかがってきました。

(サービス付き高齢者住宅「そんぼの家s立川」で)

思うの。私にはそれが驚きで、それでえくてびあんさんをお呼びしたんです。

吉田：旧姓を千葉とって、このライセンスは私が高校生の時のものです。宮城県は、仙台に進学校や大学があったので、そこでフェンシングをやっている人たちが多かったですね。

井上：でもね、私が言いたいのは、戦争中はアメリカの言葉は使っちゃいけないと言われてね、それなのに教えるだけの実力のある方がいたというのが驚きで。

吉田：仙台から先生が赴任していらしたの。それでフェンシングをやっている人たちを呼んでデモンストレーションをしてくださったのね。昭和27年ですよ。当時は学校の近くの映画館で、外国映画が盛んに上映されていてね、恰好いい決闘シーンとかね、憧れていました。そこにフェンシングのデモンストレーションですよ。その時に私は一番前で観ていたのね。そうしたら、ちょっとあなたらしいやいと褒められて、そのポーズをさせられたの。それが始まりです。

井上：吉田さんは手足が長いものね。よくやりましたよね。

吉田：戦後でしょう。貧乏だったんです。私は9人姉妹の末っ子だったんです。一番上の兄が結婚して3人子どもを残して33歳で亡くなったんですが、間の7人も昭和22年、23年と次々に結婚もしないうちに早死にして、まだ高校生の私だけが残ったんです。子どもを次々に8人も亡くして、母がよくおかしななかつたと思いました。高校に行っていました制服もままならない時代に、私は母と二人きりの生活で。赴任していらした先生がとっても親切に家庭まで面倒みてくださったんです。その時に、何か一生懸命やれば自分のお金を出さなくてもどこかに連れて行って頂けるのでは、という不純な考えからフェンシングを始めたんですよ。

井上：それはわかるわ。

吉田：それ以前は、英語なんか外国語の教科書は墨で消させられた時代だったんですけれど、英語でおしゃべりして本を読むグループがあって、そのためにあちこちの学校に行って英語を読む会に引っ張り出されたんです。何か頑張ればいろいろな所に行けるというのがこの時わかったんです。フェンシングもやれば、自分でお金を出さなくても試合でいろいろな所に連れていってもらえるということで頑張ったんです。仙台近辺の高校や、広島にも行き、国体で松山に行きました。確かまだ一桁、第8回の国体の頃ですね。

井上：その時に国体の種目にフェンシングがあるっていうのがすごいと思うの。

吉田：その時のフェンシング協会の会長が牧野さんとおっしゃる方だったの。松山まで行って、帰りは高松の見物をさせて頂いて、その帰りは会長さんの肝いりで京都に一泊させてもらった。競技は出ると負けでも、そういった他のことがとても身になりましたね。当時は女子はフルレだけね、男性になるとエペとかサーブルとか、切っても突いてもいいってね。今ね、こんな話をここでするなんて思ってもいなかったから、横須賀に置きっぱなしにしてきちゃった剣を持ってきておけばよかったと思ってね。素材が今とは違うのよね。今はしなるでしょ。昔は金物で、壁とかに当たるとボキッと折れちゃうのよね。お金もないから買い替えるわけにもいかないし、竹屋さんに行って。気仙沼は漁港ですから、魚を入れる籠屋さんが結構あって、同じ長さ竹を割いて作ってもらって。竹はしなるでしょ。それを剣の代わりに使っていましたね、それで練習したんです。

井上：今は試合で突いたりするとピカピカ光るけど、当時は…。

吉田：その頃から始まりましたよ。後ろにコード引っ張っちゃってね。タッチするとピッと灯りがついて。ユニフォームも今と同じような形でしたけど、手縫いでしたね。

井上：あの光るのは最近かと思ってましたよ。江村美咲さんが立川ということで新聞に大きく載ったでしょう。それでなおのこと、吉田さんをえくてびあんさんにお引き合わせしたかったの。江村さんと立川で通じてるなあと思って。

吉田：のちになってね、世界中を旅するようになったのだけれど、ヨーロッパで食事したりすると別の席の男性の方と目があったりするでしょう。ワイングラスを掲げてくれるから、私も調子に乗って「サルート(salut サリュウ)」と言ってね、すると通じるんですよ。フェンシングで開始の挨拶なんだけれど、乾杯に通じたみたいでね。フェンシングやっていてよかったと思うことの1つですよ。

井上：ご主人は焼きもち焼かなかつたの。

吉田：旅行はひとりで行っていたから。シルクロードを通って行ったりして、行かない国を数えた方が早いくらい(笑)。地球儀を抱えて撫でていました。津田梅子さんに憧れていたから。母ひとりを置いて上京はできなかったから、捕鯨全盛の時代に大洋漁業に就職したんです。そこで職場結婚しました。主人と一緒に旅行に行かなかったのは、捕鯨全盛の時のマルハですから、それとJICA(独立行政法人国際協力機構)に頼まれて海外出張が多かったんです。私と行くことはほとんどなかったの、それなら私はひとりで行かせていただきますって。結婚する時にね、新宿牛込柳町ってところに来たのが、初めての東京。

井上：それで13番って言ったのね。

吉田：そう、まだ路面電車のある時に、秋葉原から新宿伊勢丹前まで13番都電っていうのだけ覚えていて(笑)。それで東京に住むのかなと思ったら、即北海道へ転勤で。近海捕鯨の全盛期でした。夫との新婚生活は、北海道厚岸から始まりました。そこで魚のろし方や山で採ってきて食べるベリー類や飯餅の作り方とかも教わりましたね。

井上：私ね、今度97歳になる恩師に会うんですよ。吉田さんの90歳の話を聞いていてね、私の知らないことが多くてね、97歳じゃあ、どうでしょう。私も10年前に立川へ来たのだけれど、最初は砂川にいたんです。その頃、ここにすてきな自宅があってね、ああ、いい建物(旧梅田医院)だなあと見ながら見て通っていましたよ。ここに高齢者施設ができると言うので見せてもらった、とっても良くて。すぐ入りたいと思ったけれど入居願望の人が多くて。3年待ってれば入れるって言われました。最初の頃は近隣の人が多かったけれど、今は違いますね。いろいろな所から入居されていて。私は案外スッと入居できて、ここのオーナーの酒井さんのお母さんとも一緒にさせていただいて、そうするとね、少し認知症になりかかってきた人が、「ここはうちの主人が建てたんだ」とか言うのね、お母さんが「違うよ、ここは私が建てた私の家なんだけど」なんて小声でぶつぶつ言ったりしてね(笑)。

吉田：他県から来た私なんて、最初はそんな雰囲気にならなくて。今、まだ3年しか経っていませんからね。だからじっと聞いているだけだから、とっつきにくく思われて。最近ですよ、顔なじみになって。アクティビティがあって。体操とか、私は参加しています。でも64人入居しているけれど5人くらいしか出ていらっやらない。皆さん、お部屋でテレビ観ているんですよかね。

井上：でね、暇だ～、暇だ～って言っているのよ。だけども、暇なんか作らなきゃいいのよ。私なんか忙しくて忙しくて、こうしてえくてびあんさんに紹介したりするでしょ。で、また97歳の先生に会いに行ったり。所沢高校の生物の先生でね、所沢は当時田んぼばかりだったんです。1年中ぐちゃぐちゃの田んぼでね、1年生になるとまずそこでカエルを取ってこいって言われて。提灯ブルマで田んぼに入ってカエルをとりましたよ。千葉の博物館のようところで募集しているというんでね、私は「カエル友の会」に入っていたから「提灯ブルマがなばった」って書いてね、私、それを出したの。そうしたら博物



吉田淑子さん

1935年生まれ。5月に満90歳。両親は明治の生まれで本籍は、岩手県江刺郡。そこで姉8人が生まれ、ご本人だけが気仙沼出身。旧姓は千葉といい伊達藩とゆかりのある家系だった。帯刀御免の士族であったことが父の自慢だった。父に続き、長兄も早くに亡くなって、ご本人が中学生から高校に入ったばかりの短い期間に、間の7人の姉が次々と亡くなってしまったため、母が心労から狭心症になってしまった。母ひとりを気仙沼に置いて上京することはできず、進学をあきらめて気仙沼で大洋漁業株式会社に就職。そこで東京から転動してきた男性と結婚。次男坊で母の面倒もみてくれるということで、その後の人生は幸せだった。立川に住まいを移した息子の近くに来るため現在の高齢者施設に入居した。フェンシングは昭和27年、高校1年の時に始めたのだそう。



館で絵まで描いてくださって、大きく貼ってあった。

吉田：今日は何枚も写真を撮ってくださっているけれど、私、最近では写真はもうお断りしているのよ。

井上：私はね、この間写真を撮ってね、どれか遺影にしたいって言った、「井上さん、遺影にするならもう少し目をパッチリさせなきゃ。シワももう少しのぼしませようね」なんて、すごい顔にできあがっちゃってね。あたし、こんなだったら、兄妹だって友達だってわかんないよって言ったの。

吉田：ここに入居するのに横須賀の家を娘に継がせて、自分のものは処分してきました。アルバムは50冊捨てました。もう記録を残したくないです。90年も生きてくるといろいろありますよ。もう記録を残す必要はないけれどね。でも、今日は楽しかった。

井上：本当に楽しかった。また来てくださいね、きっとよ。



100歳を迎えて

紀寿とはなんとおめでたいこと!

元立川市長の青木久さん。5月28日に満100歳。今の立川の基盤を作った市長だった。助役時代から「知の輪、人の輪」でいくつもの難題を乗り切り、多摩のかなめ、大立川を目指してきた。来し方を、思いつくままに語ってもらった。

3年ばかり教員やったよ。府中中学（府中町立府中中学校）の。数学と理科。専門は理科だったのに数学ばかり教えていたから、父母会があった時に校長が言ってたよ。「青木先生は数学ばかり教えているけど、本当は理科の先生です」ってね（笑）。俺が先生やっていた頃は昭和22年頃で、何も無いから数学ばかり教えていたんだよ。



剣道七段 教士

村から町になって、初めての町長選で宮伝（宮崎佐衛門）さんが勝ったんだよ、砂川三三さんにな、7票差で。それでよ、砂川町で収入役をやってくれて言うから、それで先生を辞めて収入役になった。宮伝さんはな、いやあ、立派な町長だったな。俺はまだ29歳の時に収入役になってくれてと言われて、7年やって、町長亡くなっちゃってな、それで立川と合併したからな。

あのねえ、だいたいねえ、南砂川な、立川に近い方は合併の力が強かったんだよ。本村よりな。立川へ近いところはみんな、中学もみんな立川へ行ってんだな。町全体の5〜6割は合併の方に近かった。宮伝町長が亡くなっちゃって、町長選挙7票差で負けた砂川三三さんに町長やってもらって合併しようよと。それで合併したんだ。合併してよかったよ。立川市になってよかったんじゃないかねえのかな。



一如の鐘に招かれて奥様の幸子さんと



「詩歌の道」の除幕式にて

俺は収入役を7年やって、合併して部長を15年やって、岸中市長が助役をやってくれて言うから、助役を10年やって。それで岸中さんが、もう一回やりたかったんだよ、本当は。ところが議会筋とうまくいかないで、「青木君、人間もお金も場所もみんな用意してあるから、代わりに市長になってくれ」って、岸中さんの頼みで選挙やったんだよ。

みんな、砂川昌平のお陰だな。昌平が青木、青木ってなんでもお膳立てしてくれて、やってくれたから。全国市長会の時は、俺の前は横浜の市長が会長だった。15万くらいの人口の立川が、なんで全国市長会の会長になるんだ（笑）。武蔵野の市長が元気のいい人で、「青木、俺が応援する」って言ってな、それと調布の市長が俺の立高の後輩で、2人が全国を駆けまわってくれてな。また当時の座長が鹿児島市長で、それは俺の女房の師範学校の1年後輩だったんだよ。それで俺は全国の会長になれたんだ。だから、俺は昌平とカミさんのおかげで会長になれたわけよ（笑）。

青木 久さん

元立川市長。1925年5月28日砂川生まれ。1957年1月20日東京都北多摩郡砂川町収入役就任、1963年4月30日立川市との合併に際し退職、5月1日立川市副収入役就任。以後、建設部長、総務部長、福祉部長、企画財政部長、開発部長を経て、1978年4月1日より助役。1987年6月3日、市長選出馬のため退職。1987年9月8日より5期20年立川市長を務める。2002年6月6日には、第25代全国市長会会長に推挙される。2010年4月29日、旭日中綬章受章。剣道七段 教士。

お酒とタバコをやめないと家を出ていとお母さんに言われて、22歳の時から一切、お酒もタバコもやらない。だから長生きなのだとおっしゃる。奥様の幸子さんは音楽専任の小学校教諭で、後年、教頭、校長へと歩みを進めた。初めての市長選では、「青木（幸子）先生の旦那さんなら応援しなきゃ」と言われ、奥様の教え子たちの支持のもと当選を果たしたとおっしゃっていた。

俺は、嫁の来てがなくて、独身で収入役をやっていたんだ。町長が「予算が1億になって独身じゃ困る」って言うんだよ。そうしたらそれを聞いていた砂川昌平がよ、「青木、俺んとこに下宿している先生でいいじゃねえか」って。「ダメだよ、鹿児島じゃ、俺んとこで許可されない」「いいよ、俺に任しとけ」ってな。それで俺がうちに帰ったらお袋がな、「お前は将来のことを親に言えないのか」って言うんだよ。「なによ」って聞いたら「今日、砂川さんが来たよ。青木の嫁は議会で決めたから、おばさん、反対できねえぞ」って（笑）。昌平のおかげで俺は女房と結婚したんだ（笑）。

砂川昌平君が「議会で議決した」と言ってくれたんだけど、親父はずっと反対していたな。昌平は、そういう点は上手だよ。議会で議決なんかするわけねえのに、そうやって親父とお袋を説得したんだよ。女房も88まで生きたかな。俺は、油屋のヤクザ息子って呼ばれていたからな、嫁の来てがなかったんだ。

あのモノレールはな、俺が計画したんだ。東京大学の伊藤滋先生と、建設省の渡部参事官が、まだ俺が助役の時だ、「青木助役、神戸のポートアイランドの新交通を三多摩でやろうじゃないか」って、それで計画したのがこのモノレール。それでモノレールを発表して、25mの道路へモノレールを走らせるって言ったら、三多摩の全市町村が反対したんだ。「青木助役、三多摩のどこに25m道路がある」って言うんだ。25m道路があるくらいなら、モノレールなんか要らないって。当時鈴木都知事が80歳で、自民党の公認をもらえなかった。磯村尚徳っていうNHKのキャスターが出た。鈴木さんは自民党の公認をもらえなかったけれど、武蔵野市の市長と調布の市長が、青木助役のモノレールの構想を貸してくれていうから、何するんだって聞いたら鈴木さんの公約に使うって言うんだ。ところが鈴木都知事のところまで行った時には、俺の案ではなくて、借りに来た東京都の職員の案ということになっていた。当選して「知事、おめでとうございます。私のモノレール構想を実行してやってください」と言ったら、知事が「え？」って言うんだ。あれは私の案ですよって言ったんだけど、でも当選したらすぐに予算をつけて実行してくれたからな。東大の伊藤滋先生と渡部参事官が俺を指導してやったのがモノレールなんだ。俺の案ではあったんだけど、俺がやってたんじゃあ、できなかったな。

この5月28日に100歳になるんだよ。5月30日に弟が誕生日のお祝いの会をしてくれると言うんだ。だから5月までは生きていなきゃならないんだ（笑）。



北口ペDESTリアンデッキ開通式にて



100歳を前に、2025年2月19日レエンデ敬愛で撮影

えくてびあんの輪

えくてびあんはリストのお店にあります。
今月は 柴崎町・富士見町・緑町・泉町・西砂町
一番町・上砂町・砂川町・柏町・幸町 のお店です。

柴崎町	酒 醒醐..... 522-4926
	スープ・カフェ なんでもない日 523-5114
	武本測量(株)..... 524-7731
	立川市柴崎市民体育館..... 523-5770
富士見町	(株) 浅見酒店..... 522-2823
	西村歯科クリニック..... 519-9501
	井上レディースクリニック..... 529-0111
	中華レストラン 東華園..... 529-0458
	有料老人ホーム サンピナス立川 527-8866
	うさぎ専門店 ラッキーラビット 524-6054
	びーびー K 70..... 525-3623
	(株) ホーミー..... 522-2220
	カフェ・貸しホール ばくだん畑 522-2214
	トロピカル・ジーナ..... 512-7210
	波多野米店..... 522-2884
	立川市社会福祉協議会 529-8323
	立川市歴史民俗資料館 525-0860
	乙黒東洋整骨院..... 523-1859
	インテリア アイアイ..... 522-5972
	多摩信用金庫 富士見町支店 528-1741
	酒 ESPOA おぎの..... 522-4500
	(株) 立川印刷所..... 524-3268
	はじめ治療院..... 524-7727
	立川松栄寿司..... 524-6958
	ふじみ食堂..... 523-4791
緑町	多摩信用金庫 本店..... 526-7700
	GREEN SPRINGS info 524-2222
	Adam's Awesome Pie 525-8375
	国立国語研究所..... 540-4300
	国立極地研究所..... 512-0652
	南極・北極科学館..... 512-0910
	国文学研究資料館..... 050-5533-2900
	花みどり文化センター..... 528-1751
	昭和天皇記念館..... 540-0429
泉町	インヴォラーレ・ルーデンス
	blooming bloomy くらぼーと立川立飛 548-1215
	海上保安庁海上保安試験研究センター 526-5630
	Café はあもにいよ..... 512-7810
	大和ハウス工業(株) 東京西支社 525-1821
西砂町	砂川庵 甚五郎..... 531-6788
一番町	私立立川ひかり保育園..... 531-1273
上砂町	B3+ギャラリーウェルメイド 538-7250
	fresh shop スーパーはしもと 536-2331
砂川町	ファーマーズセンター みのれ立川 538-7227
	陶工房 己流庵..... 537-6102
	多摩信用金庫 砂川支店..... 535-4411
	珈琲豆焙煎工房 まめ吉..... 535-1070
	BREAD & Sweets マニエール 537-2202
柏町	山梨中央銀行 立川支店..... 536-0871
	株式会社 セレモア..... 534-1111
	パワー軒..... 535-1665
	H.works..... 537-7763
	(有) まつい測量..... 534-4411
	ピーコック 玉川上水店..... 538-3861
	菅家医院..... 536-4602
	イル・ピアット オチアイ..... 537-7374
幸町	いなげや 立川幸町店..... 537-1820
	多摩信用金庫 幸町支店..... 535-5311
	中国料理 SANFUJI..... 536-3813
	西武信用金庫 幸町支店..... 537-3101

jorakugajo

真如苑提供番組「常楽我浄」

スカパー！：529ch

スカパー！で放送の常楽我浄は
スマホアプリ「スカパー！番組表」(無料)で視聴できます。

J:COM 多摩：11ch・111ch

放送時間については番組表をご確認ください。

www.shinnyo-en.or.jp

街の話題

掲載しきれなかった写真や動画、
詳しい内容はQRコードからどうぞ



立川シティハーフマラソン2025



先頭を走る近田選手 15km付近

日向は暖かく、日陰に入ると風がまだ冷たい3月9日。立川シティハーフマラソンが開催されました。10キロに3000人、ハーフマラソンには7000人が走ったそうです。10時にスタートしたハーフマラソン、昭和記念公園立川口につながるみどり橋で観戦していましたら、先頭集団が西立川近くで折り返し、みどり橋の下を通過して砂川方面に向かう頃、自衛隊駐屯地の中を走る一般ランナーの姿が見えていました。7000人ってやっぱりすごいです。

箱根駅伝予選会のイメージで走れるコース、日本学生ハーフマラソン選手権との併催がなくなっても多くの学生が集い、中央学院大学の近田陽路選手が1時間2分11秒で優勝しました。



西立川方面で折り返してきた先頭集団とすれ違う一般ランナー

立川アスレティックFC シーズン報告会開催

3月26日、ホテルエミシア東京立川でフットサルの立川アスレティックFCの2024-25シーズン報告会が開催されました。支援する多くのパートナー企業の皆さんに、JFA第30回全日本フットサル選手権大会 準優勝を報告しました。優勝することを目標に今シーズンも頑張ってきただけに悔しい報告ではありましたが、また次に向けて頑張ってもらいましょう。立川市スポーツ振興課長のお話では、4月から泉市民体育館を早朝時間帯に立川アスレティックFCの練習時間として使ってもらうことになったそうです。立川に練習拠点をもってなかった同チームにとっても、ファンにとっても、とてもいいお話ですね。練習拠点を立川に得て、さらに飛躍する立川アスレティックFC。みんなで応援しましょう！



立川アスレティックFC男子選手とスタッフ



立川アスレティックFC女子選手とコーチ



成績報告する皆本社長兼選手



立飛ビールで乾杯

28日の稚児行列の様子

稚児行列

3月28日は、立川に総本部を置く真如苑開祖のお誕生日。今年も晴れやかに稚児行列が、立川駅から柴崎町1丁目の真如苑総本部境内まで練り歩き。今年は南口の方々が、この日に合わせて「3.28立川南さくらまつり」を開催しました。会場となった諏訪の森広場にはいくつものキッチンカーが出て、アートクラフトなどのブースも登場、ステージではキッズチアや大道芸、アイドルの舞台もあって盛りだくさん。2日目の29日には冷たい雨が降っていましたが、それでもかわいいお稚児さんたちの姿があって、心温まる2日間でした。



立川諏訪の森広場を稚児行列が歩きます



昼過ぎにはとても賑わった諏訪の森広場



29日の稚児行列の様子(諏訪の森で)

国文研のブックレット

国文学研究資料館では、大規模学術フロンティア促進事業に関する研究成果等の情報発信の一環として、平凡社よりブックレット〈書物をひらく〉を刊行しています。この度刊行された第32巻『紫式部の「ことば」たち 源氏物語と引用のコラージュ』(中西智子著)と、第33巻『草双紙って何? 赤本・黒本青本は主張する』(松原哲子著)及び第34巻『江戸の通信添削 美濃加治田平井家のものがたり』(神作研一著)の3冊は、とても内容がわかりやすく、面白く書かれています。『源氏物語』は難しいはずの古文なのに体裁が素晴らしく、読みながら解っていくのが不思議。「篤重」で巻に存在感を示す黄表紙の、ちょっと前の赤本、黒本、知っておいて損はないです。ミステリーのような書き出しで心を掴まれるのが「美濃加治田平井家のものがたり」。改めて、古に心を運んでみませんか?
お問い合わせは国文学研究資料館
TEL 050-5533-2910



今年の桜はゆっくり楽しめました



残堀川の桜



真如ヤーナの桜



根川の桜

表紙

薫風(応現院芝生ひろば)
昨今は、五月の空を鯉のぼりが泳ぐ風景に出会うことが少なくなりました。正楽院(羽衣町)の鯉のぼりや、古民家園小林住宅(幸町)の鯉のぼりが立派だと思ったことがあります。立川には、秀光人形工房(砂川町)があり、そこでは江戸手描き鯉のぼりを扱っています。秀光さんによれば、鯉のぼりの上にある吹き流しは、「子どもが生まれたのでこの家を守ってください」という、神様へのお知らせだったのだとか。家紋を入れたり名前を入れたりしたそうです。風薫る五月、藤の花が美しく、大空を高く泳ぐ鯉のぼり。なんて気持ちのいい季節なのでしょう。四季の変化が解りにくくなった今、こうした風景が新鮮ですね。

かたこと

◆今号は、図らずも高齢者の方々が多く登場する号となりました。お元氣なご様子に、取材する側が励まされました。とにかく皆さん、記憶力が素晴らしい。聞く力、話す力、まとめる力もすばらしい。語るだけの人生を過ごしてこられたことに、敬意を表します◆元立川市長の青木久さんのお話を、全部掲載できないことがとても残念です。常に柔和な表情で、「周りのおかげ」とおっしゃる。頭が下がります◆今年初めて稚児行列に合わせて開催された「3.28立川南さくらまつり」。2日目が雨になってしまって残念でしたが、穏やかで楽しいイベントでした。まさに「美味しい、楽しい、かわいい」お祭り。来年に繋いでいきたいですね。桜が見ごろのこの時期に、やっぱり立川の桜は南口だな、桜の名所は南口にたくさんあると再認識したイベントでした◆立川の見どころの1つに挙げられる「南極・北極科学館」。2010年7月の開館以来の累計来場者数が、本年3月25日に40万人に達したそうです。入館無料の科学館です。まだ行ったことのない方はぜひ! ◆目を世界に移せば、紛争や天災で多くの人の命が奪われています。今の幸せを当たり前前に思わずに、感謝の気持ちを忘れずに、また立川の街を歩き回りたいと思います。

えくてびあんスタッフ一同

えくてびあん◎

5月号 第41巻 通巻482号

令和7年5月1日発行
発行 有限会社えくてびあん
〒190-0023
東京都立川市柴崎町2-1-10 高島ビル4F
TEL 042-528-0082 FAX 042-528-0065
E-mail message@tamatebakonet.jp
URL https://www.tamatebakonet.jp
発行人 黒須 環
企画・編集 えくてびあん編集スタッフ
写真 五来孝平・Betty
デザイン 池田隆男 (WATER DESIGN ASSOCIATES)
印刷 ダイオームウラ株式会社・DECK C.C.

無断転載を禁じます。

あの頃の立川

創刊から40年——㉓

青木元市長の通った道

立川市政施行 50周年記念式典



写真集「砂川闘争の記録」出版記念
砂川闘争 40周年“同窓会”

多摩都市モノレール開業の日（3点共）



元市長の青木さんが辿り来られた道を、えくてびあんの写真でご紹介。

「バツカリ市」から時は平成になって「立川駅開設 100 周年」を迎え、この年の8月に「第1回 よいと祭り」開催。「よいと祭り」は祭の名前を考える時、「よいしょ」と「良い都」が1つになって「よいと祭り」となったのだとか。立日橋開通、多摩都市モノレール事業、南口歩行者デッキ開通、ペDESTリアンデッキ開通、柴崎体育館開館、ファーレ事業などなど、青木元市長の20年は盛り沢山でした。

(えくてびあんの写真から)

ネットでも公開しています

